

令和7年度 校内研究計画

平戸市立中野小学校

1 研究主題

他者とつながり高め合う児童の育成
～算数科における協働的な学びの充実を通して～

2 主題設定の理由

①最近の教育課題から

近年、学力格差や学習意欲が継続しない、不登校児童が増加しているなど、子供たちが抱える課題は多岐にわたる。家庭環境や生活環境によって、自己肯定感が低い子供や、生活経験が浅い子供が多いため、持続可能な社会を生き抜くための「生きる力」を十分に育むことが重要となる。

そこで、現行学習指導要領では、「コンテンツベース」の授業から、「コンピテンシーベース」を主軸とした授業への転換が求められてきた。端的に言うと、「学習者である児童が主体となる」授業をしっかりと展開することである。そして、今までの「何を学ぶか」重視の学習も大事だが、まずは子供が「何ができるようになるか」を重視した学習展開を行う工夫が必要であるとされている。

そのような背景の中、令和3年答申では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、一人一人の可能性を伸ばしていく「個別最適な学び」と、同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合いながら学習していく「協働的な学び」を往還させ「主体的・対話的で深い学び」の具現化を目指すこととなった。

本校は昨年度より「令和の長崎スクール」の「協働的な学び部会」の実践協力校として指定されている。そこで、今年度から市の指定を受けるにあたり、協働的な学びを中心とした授業改善を研究の柱に捉え、「コンピテンシーベース」の教育について、さらに学びを深めていくことは、本校にとってたいへん価値あることと考える。

②学校教育目標と重点目標の具現化から

【学校教育目標】

「ふるさとを愛し、夢と誇りをもって、心豊かにたくましく生きる児童」の育成
～ 行きたい学校 帰りたい家庭 住みたい地域 ～

【目指す児童像】

なかよく・・・自他を大切にして思いやりのある児童
かしこく・・・自ら考えて、主体的に学ぶ児童
たくましく・・・最後まで、粘り強く取り組む児童

本校における「協働的な学び」を、
「問題を自ら解決するために、学び方を自己選択し、周りの人と関わりながら、
より豊かな理解を作り上げていく学び」と共通理解し、取り組んでいく。

本校の教育における目指す児童像を受けて、協働的な学びにおける目指す児童像を以下のよう
に設定した。

◇【N なかよく】対話を通して自分の可能性を広げる児童

- ・共に学び合うことを通して考えを深める。
- ・自分も他者も尊重しながら、ともに考えを導き出そうとする。

◇【Kかしこく】主体的に学ぶ児童

- ・問題の解決方法を自己選択・決定し、見通しをもって学習する。
- ・あきらめず、粘り強く取り組み、次の学びにつなげる。

◇【Tたくましく】学びを深めていく児童

- ・多様な他者との交流で、見解を広げたり、新たな考えを形成したり、問題を見出したりする。
- ・学習で獲得した力を認識したり活用したりすることで、より深い理解へとつなげ、今後の学習
や実生活に生かす。

③児童の実態から

学習面では、令和6年度の平戸市学力調査の結果から、算数科は4つの学年が全国の標準スコアを上
回る結果となった。しかし、全ての学年において、基礎問題と比べて活用問題を解く領域では正答率が大き
く下がる傾向にある。問題を解き終わるまでに途中で諦めたり、長文の問題を読むことをしなかったりする。
前年度までの国語科の研究を基盤に、粘り強く課題に取り組もうとする児童を育成することは継続して行
う。

また、生活面に関して普段の様子については、思考力の弱さが目立つ。委員会活動やクラブ活動の際に、
よりよく活動していくためのアイデアを自力で考える力が弱い。深く考える前に諦めたり、すぐに教師にヒン
トをもらおうとしたりする受け身の傾向が強い。話し合い活動の際には発表するだけ、という一方向にとどまる
ことが多く、深まりがないことも課題である。児童同士で課題を解決する力が弱く、教師の手を借りて話し合
いを進めることがほとんどである。

そこで、今年度から来年度にかけての目標は、協働的な学びについての研究を中心とし、より児童一人一
人に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した研究を進める。

3 研究仮説・内容

支持的風土のある学級づくりを基盤とし、対話的な学びの場面において児童を主体とした学習展開の工夫を図ることで、粘り強く取り組んだり考えを高め合ったりすることができるようになるであろう。

「支持的風土のある学級づくり」とは

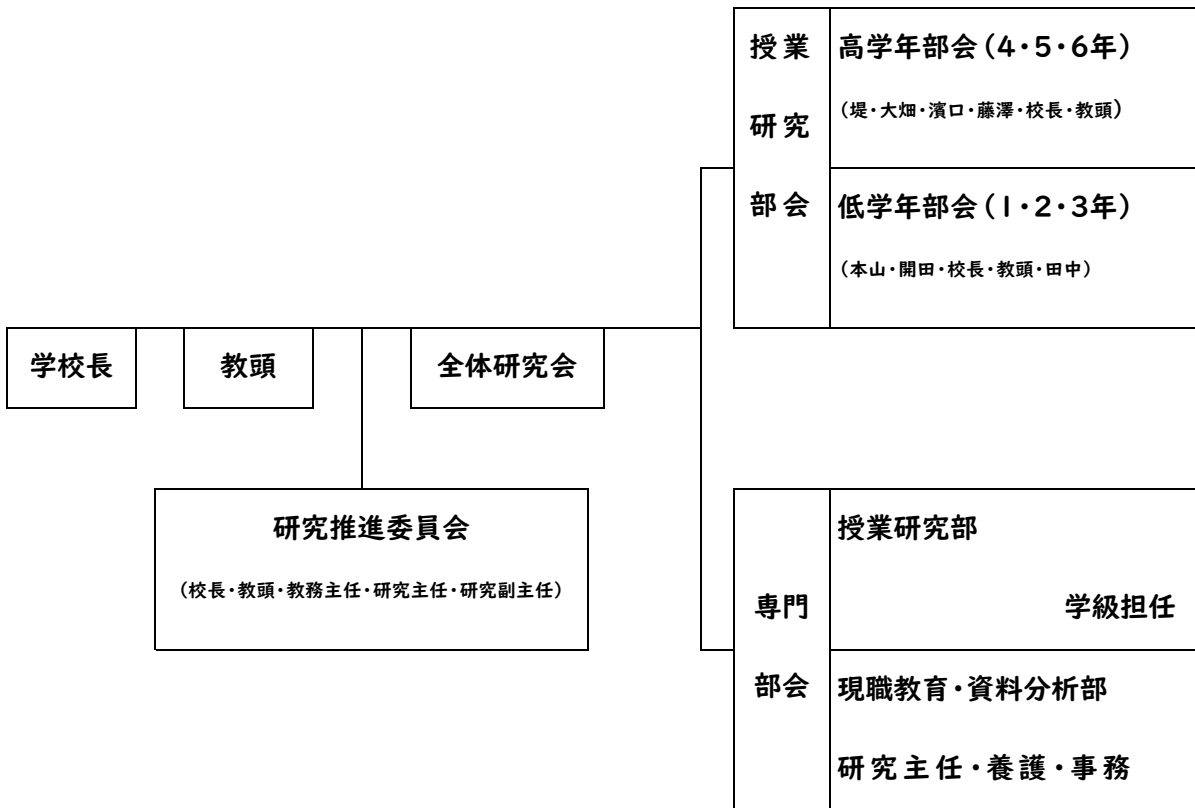
- ・自己の成長を自分や他者が認め合う学級をつくる
- ・遠慮なく発言できる雰囲気のある学級をつくる
- ・（学級に居場所があると感じる）心理的安全性が保障された学級をつくる

「児童を主体とした学習展開の工夫」とは

- ・児童が主体となって学習を進めるための学習過程の理解と進め方の指導
- ・いつだれとどのように学ぶか自己選択する力を段階的に育成する
- ・学習の見通しをもつために学習計画を提示するとともに、児童が自分事として考えることのできる導入の工夫や協働的な学びを促す言葉かけや発問を行う。

※研究仮説を実証する3つの柱を設定し、具体的な取組を実践していく。(別紙「研究構想図」参照)

4 研究組織



部会		研究内容(案)
授業研究部	低学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた学力向上に向けての対応策及び検証法の立案 ・算数科の指導法の研究及び提案 ・ICTの効果的活用法の提案 ・特別支援教育の考え方(ユニバーサルデザイン)を生かしての授業づくりについての研究と提案
	高学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・教材教具の整備 ・家庭学習・読書活動の啓発活動 ・学力向上のための校内環境整備 ・読解力向上のための取組 ・スキルタイムの実施
現職教育・資料分析部		<ul style="list-style-type: none"> ・現職教育の計画、実施 ・掲示物等の計画、作成 ・各学力調査結果分析(算数アンケート)

5 年間計画

回数	学期	月	日	曜	会種	内容
1	1	4	3	木	推進	今年度の方向性について
2		4	10	木	全体会	本年度の校内研究の方向性、共通理解事項確認 学力向上プラン確認
3		4	28	月	推進	本年度の校内研究の確定
4		5	8	木	全体会 ↓ 低・高部会	研究授業の計画 全体授業者決定 各部会の重点指導内容
5		5	20	火	推進	本校の協働的な学びの現状→児童の実態
6		5	28	水	推進	研究仮説・具体的取組について
7		6	5	木	全体会	chromebook 研修会一回目

8		6	12	木	全体会	全体授業者決定・共有事項
9		7	3	木	全体会	提案授業（4年）・授業研究会・市教委指導
10	夏休み	7	22	火	全体会	学力向上プランの策定など
11		7	23	水	全体会	協働的な学びの定義、研究主題など
12		7	24	木	全体会	目指す児童像の表作成など
13		7	25	金	全体会	指導案形式、今後のスケジュールなど
14		8	7	木	推進	9日の校内研の共通理解
15		8	9	土	全体会	学力向上プランの検討など
16		8	29	金	全体 ↓ 低・高部会	全体授業学習活動案検討1年
17	2	9	4	木		進捗による
18		9	11	木		進捗による
19		9	18	木	全体 ↓ 低・高部会	全体授業学習活動案検討6年
20		9	19	金	学年部会	研究授業・授業研究会（ひまわり）
21		10	3	金		市校長会学校訪問（授業参観あり）
22		10	16	木	全体会	中間指導学習活動案検討（1年）
23		10	21	火	推進	研究発表の準備
24		10	23	木		進捗による
25		10	30	木	部会	研究授業・授業研究会（5年）
26		10	31	金	全体会	定例学校訪問（授業参観）市教委
27		11	6	木		進捗による（修学旅行のため個人？）
28		11	13	木	全体会	中間指導 1年生研究授業
29		11	19	水	全体会	研究授業（6年）
30		11	20	木	全体	授業研究会（6年）
31		11	27	木	学年部会	研究授業・授業研究会（2・3年）

32		11	28	金	校長・主任	県センター シンポジウム出席
33		12	23	火	推進	学習の流れについて
34		12	24	水	全体	学映システム (ICT 研修会) まなびポケット連絡 帳機能・オクリンクプラス活用例
35	3	1	8	木	全体⇒ 個人	学習の流れ 提案 紀要原稿作成
		1			推進	NKT 活用例 案作成
		1	22	木	全体	学力検査結果考察
		1	29	木	全体	NKT 活用例 提案
					推進	1年間の振り返りについて原案作成 学習の振り返りカードについて原案作成
		2	5	木	全体	学力向上プランの振り返り 1年間の研究について振り返り 学習の振り返りカードについて提案
		2	10	火	個人	学力調査考察 校内提出メ切
		2	26	木	全体⇒ 低・高部会	研究主任会の共有 今年度研究まとめ 授業研究振り返り等
		3	6	金	推進	各月の学習目標・生活目標 原案作成
	未定	3	19	木	推進	来年度の方向性について
		3	24	火	全体会	来年度の方向性について話し合い 各月の学習目標・生活目標 提案

※研修計画はあくまでも予定であり内容変更、研修回数の増減もあり得るのでご了承ください。

※授業改善研究会の伝達講習や研修会の伝達講習の時間を適宜とらせていただきます。可能な限り各部会での意見交換の時間を確保していきたいと思います。

6 研究授業内容

学年	時期	単元名
----	----	-----

1年	10月中旬	足し算
2・3年	11月下旬	2年 かけ算 3年 小数
4年	7月3日(木)	小数のしくみを調べよう
ひまわり	9月中旬	自立活動
5年	10月下旬	分数の足し算・引き算を広げよう
6年	11月20日(木)	比例の関係をくわしく調べよう